

# 平成30年矢巾町議会定例会3月会議

## 一般質問議員と質問事項一覧表

受付順	質問議員	質問事項	答弁者
1	7番 昆 秀一	1. 町長の政治姿勢について	町 長
		2. あいさつの励行について	町長・教育長
		3. 交通マナー教育のさらなる充実について	町長・教育長
		4. 教育委員会の活性化について	教 育 長
2	6番 村松 信一	1. 矢巾町の農業振興について	町長・農業委員会会長
		2. 矢巾町まちづくり改革元年について	町長・教育長
		3. 明治150年のイベント開催について	教 育 長
		4. 環境にやさしいまちの構築について	町 長
3	14番 小川 文子	1. 子育て支援と移住・定住の促進について	町 長
		2. 町民の企画・提案によるまちづくりを	町長・教育長
		3. 南昌グリーンハイツをスケート場に	町 長
4	5番 齊藤 正範	1. まちづくりの考えについて	町 長
		2. 農業政策について	町長・農業委員会会長
		3. 普代村との更なる交流について	町長・教育長
5	17番 米倉 清志	1. 地域消防力の強化に向けた消防団の活性化について	町 長
		2. 駅前上堰に「ホテルの里」建設について	町 長
		3. スポーツ芸術の人材採用について	教 育 長
6	13番 川村 よし子	1. 国民健康保険制度の広域化について	町 長
		2. 高齢者福祉と介護保険について	町 長
		3. 農業政策について	町 長
7	2番 水本 淳一	1. 「健やかな生活を守るまちづくり」について	町 長
		2. 家庭的保育事業の取り組みについて	町 長
		3. 「住民協働の町づくり」について	町 長
		4. 広域連携の推進について	町 長
		5. 「住みたくなるまち やはば」の青少年への取り組みについて	町 長
8	15番 藤原 由巳	1. 平成30年度の施政方針演述について	町 長
		2. 教育行政方針を受けて	教 育 長
		3. 「新しいまちづくり調査研究特別委員会」からの政策提言を受けて、その後の経過について	町 長
9	8番 藤原 梅昭	1. 『快適性と安全性を高めるまちづくり』について	町 長
		2. 『産業の活力を高めるまちづくり』について	町 長
		3. 学校教育の充実について	教 育 長
		4. 『安心と信頼が寄せられる行政経営』について	教 育 長
10	9番 川村 農夫	1. イセファームの臭気対策について	町 長
		2. 農業の具体的施策展開について	町 長
		3. 町長の町民党とは	町 長
計	10名	35件	町 長 29件 教 育 長 11件 農業委員会会長 2件



# 一般質問通告書

矢巾町議会議長 廣田光男 殿

受付 No. <u>1</u>	平成30年2月23日	午前 <del>午後</del> 9 時00分
議席番号 <u>7</u> 番	昆 秀 一	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 町長の政治姿勢について (答弁者) 町長</p> <p>高橋町長が町長に就任されて約3年となり、残り任期1年ほどとなりますことから、今までの振り返りやこれからの展望を含めて、町長の政治姿勢について伺います。</p> <p>① 町長の今まで町政運営をされての自己評価は。 ② 町長の考えられている町民党・草の根型の意味は。 ③ 町民や職員の中の若い層の意見を、どのように捉えて生かしているのか。 ④ 職員への対応で心掛けていることは。</p>
質問2	<p>(質問事項) あいさつの励行について (答弁者) 町長、教育長</p> <p>あいさつは人間関係でのコミュニケーションの基本であり、非常に大切であると思いますが、このあいさつをしっかりとできていない方が多いように感じます。そこで、よりよい人間関係を築くためのツールとして、あいさつで笑顔のあふれる町にしていくために、以下伺います。</p> <p>① 町としての笑顔とあいさつに対する認識と重要性の捉え方は。 ② 学校としての笑顔とあいさつに対する認識と重要性の捉え方は。 ③ 矢巾東小学校のスマイルあいさつ運動は、どのようなき</p>

	<p>っかけで始まったのか。また、現在の活動状況のほか、他の学校の状況、今後の活動については。</p> <p>④ 町民全体でのあいさつ運動の状況と今後の施策の考えは。</p>
<p>質問3</p>	<p>(質問事項) 交通マナー教育のさらなる充実について (答弁者) 町長、教育長</p> <p>現在、議会の交通に関する調査特別委員会では、各種調査活動等をしているところです。その中で、人間の営みの基本はやはり交通マナーが基本にあると感じるところから、以下について伺います。</p> <p>① 小中学校での交通マナー教育の状況は。 ② 町民、特に高齢歩行者・高齢者の自転車・高齢ドライバーに対する交通マナー教育の状況と対策は。 ③ スクールガードなどボランティアの人材確保策・支援策は。 ④ 飲酒運転の状況と対策は。 ⑤ スマホのながら歩行や運転対策は。</p>
<p>質問4</p>	<p>(質問事項) 教育委員会の活性化について (答弁者) 教育長</p> <p>町の教育の要である教育委員会は、町民にとって大変重要な役割を担っている機関です。ところが、どういう方が委員になっていて、どういうことをしているのかを知っている方は少ないのではないのでしょうか。そこで、教育委員会がどのように町民と向き合って活動しているのか、以下伺います。</p> <p>① 教育委員の選出を公募にする考えは。 ② 教育委員会議と総合教育会議の役割関係と、町民の理解度は。 ③ 各教育委員の多様性の生かされ方は。 ④ 教育委員会議の公開度についての認識は。 ⑤ 教育委員会と所管課職員の役割関係については。</p>

# 一般質問通告書

矢巾町議会議長 廣田光男 殿

受付 No. <u>2</u>	平成30年2月23日	午前 <del>午後</del> 9 時00分
議席番号 <u>6</u> 番	村松 信 一	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 矢巾町の農業振興について (答弁者) 町長、農業委員会会長</p> <p>町長は本町の基幹産業である農業経営強化のために、振興策に熱心に取り組んでおりますが、減反政策廃止後における農業全般についての考えを伺います。</p> <p>① 平成29年度、圃場面積2,700㌔に対し、うるち米868㌔、もち米488㌔、計1,427㌔の作付け実績でありましたが、新年度から始まる減反政策廃止による稲作計画について、また、本格的に取り組む「銀河のしずく」の作付け計画について。</p> <p>② 輸入野菜からのシェア奪還に向け、生鮮用野菜から加工・業務用野菜への転換を対象とした9品目野菜栽培の計画状況について、また、規模拡大による過大投資抑制の経営指導について。</p> <p>③ 農村には少子高齢化や地域別過疎化などの課題を払いのけ、地方創生振興のために、地域が自らの資源を活かした生産物や自然の恵み等を含め、地域を売り込む指令塔として地域商社的な本町の「道の駅」構想の考えについて。</p> <p>④ 農業委員会制度について、平成30年4月からの新制度へ移行しますが、農業経営に重要な役割となる新農業委員の選考状況について。</p>

質問 2

(質問事項) 矢巾町まちづくり改革元年について

(答 弁 者) 町長、教育長

町長の年頭の挨拶において、より安全・安心なまちづくりの推進のため「医療・福祉・健康・子育て」を一体的に取り組み、「生活しやすい・災害に強い・学習できる」まちづくりを掲げており、「住んで良かったという町」から「住みたくなるまち矢巾」の実現について話しをしていましたが、その考えについて伺います。

- ① 「医療・福祉・健康・子育て」を一体的に取り組むための具体策として、共稼ぎの増加、保育園不足や学童の余暇時間サポート等、子育てや介護など、その一部は家庭内対応が可能となる多世代家族の考えについて。
- ② 高齢化社会の課題解決に向けて、IT・IOT・AI等を活用した健康長寿社会の構築が重要であり、この取り組みを行政と共同研究する機関として岩手県立産業技術短期大学に専門研究科を誘致する考えについて。
- ③ 学習できるまちづくりの更なる教育充実策として、ドローンによる体験学習を授業に取り入れる考えについて。
- ④ 「音楽のまち」として、音楽が身近にある環境づくりのため、庁舎や各施設、矢幅駅から岩手医大までの道路等、町関係施設にBGMを流し、日常的に自然と音楽が聞こえてくるまちづくりへの考えについて。

<p>質問 3</p>	<p>(質問事項) 明治150年のイベント開催について (答 弁 者) 教育長</p> <p>明治以降の日本の歩みを改めて整理し、技術や文化芸術に対する特別展示会等が全国各地で開催されており、次世代に遺す施策として市町村や民間に対し明治期等の文化財の修復や活用、デジタルアーカイブ化など国の支援策があり本町の取り組みについて、以下伺います。</p> <p>① 各種文化遺産のデジタルアーカイブ化について。 ② 「遺産・歴史」のまち歩き遠足等の企画や明治期の矢巾町や盛岡市近郊の風景写真やパネル展等を開催してはどうか。 ③ 各消防屯所には貴重な遺産である椀用ポンプが保管されているが、これをイベント等に活用してはどうか。</p>
<p>質問 4</p>	<p>(質問事項) 環境にやさしいまちの構築について (答 弁 者) 町 長</p> <p>環境負荷の少ない町の構築に向けて、クリーンエネルギーの普及を図るための町施設のLED化、民間業者による町内でのメガソーラー発電など環境にやさしいまちに向けた取り組みが着実に進んでおり、全町民が参加する取り組みとして、行政所有の全車両のEV化、水素ステーションの設置、EVカー購入補助等、「環境にやさしいまち矢巾」に取り組んではどうか伺います。</p>

# 一般質問通告書

矢巾町議会議長 廣田光男 殿

受付 No. <u>3</u>	平成30年2月23日	<del>午前</del> 午後 4時00分
議席番号 <u>14</u> 番	小川文子	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 子育て支援と移住・定住の促進について (答弁者) 町長</p> <p>子育て支援と移住・定住の促進について伺う。</p> <p>① 結婚、出産の祝い金を支給してはどうか。</p> <p>② 町営住宅について、特にも子育て世代の移住が可能となるように、町内居住の入居条件を緩和できないか。</p> <p>③ 賃貸住宅へ入居している子育て世帯を対象に、家賃を補助することはできないか。</p>
質問2	<p>(質問事項) 町民の企画・提案によるまちづくりを (答弁者) 町長、教育長</p> <p>町民の企画や提案を生かしたまちづくりを進めるため、以下伺う。</p> <p>① 町民による企画を募集し、その実現のために補助金を支給してはどうか。</p> <p>② 「音楽のまち」を実現するため、企画を募集してはどうか。</p> <p>③ 町内産食材を使用した料理や加工品のコンテストを実施し、道の駅開設に結び付けることはどうか。</p>



質問3

(質問事項) 南昌グリーンハイツをスケート場に  
(答弁者) 町長

水漏れのため、30年度のプール営業が難しくなっている南昌グリーンハイツを、冬場のスケート場に活用できないか。冬期間の運動施設が少ない本町の状況の改善と親子の触れ合いの場となるのではないか。

# 一般質問通告書

矢巾町議会議長 廣田光男 殿

受付 No. <u>4</u>	平成30年2月26日	午前 <del>午後</del> 9 時00分
議席番号 <u>5</u> 番	齊藤正範	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) まちづくりの考えについて (答弁者) 町長</p> <p>第7次矢巾町総合計画前期計画の中間点を経過する平成30年度の事業について伺います。</p> <p>① ヘルスケアゾーンにおける企業件数について、平成31年度までに5事業所を目標にしているが、現状と見通しは。</p> <p>② 起業を志す方への指導体制で、起業意欲のある方の発掘と意欲向上の取り組みはどのように行うのか。</p> <p>③ 矢巾地域まちづくりコンソーシアムの活動状況と行政との関わり、また、まちづくり会社の広報体制について。</p> <p>④ 空き家対策について、その調査結果と、移住などに結び付ける施策の考えは。</p> <p>⑤ 公共交通の補完として運行している「さわやか号」の利用状況と今後の運行についての考えは。</p>
質問2	<p>(質問事項) 農業政策について (答弁者) 町長、農業委員会会長</p> <p>基幹産業である農業の政策について伺います。</p> <p>① 農業者などで構成される活動組織への支援や法人化を</p>

	<p>推進するとしているが、個人の認定農業者の育成はどのように行うのか。また、集落組織などとの関わりをどのように整理していくのか。</p> <p>② 認定農業者には経営規模拡大の計画策定が求められているが、農地集約が進んでいる当町において、新たに農地を集約し規模を拡大することはどの程度可能か。</p> <p>③ 新たに任命される農業委員は、当町の場合、農地利用最適化推進委員も兼務することになっており、農地などの利用最適化も同時に推進し成果をあげる任務も加わり、推進の公正な実施と各現場での活動の整合性を確保する指針を定めることとなっているが、進捗状況は。</p> <p>④ 指針の策定に当たっては、担い手への農地利用集積面積・遊休農地解消面積・新規参入者数などの目標値と具体的推進などが挙げられていますが、現時点での考えは。</p>
<p>質問 3</p>	<p>(質問事項) 普代村との更なる交流について (答 弁 者) 町長、教育長</p> <p>1月に当町と友好交流協定を締結している普代村に会派合同による視察研修を実施しました。その際、両町村の文化や物産について更なる交流ができるのではないかという意見が纏ったことから、以下伺います。</p> <p>① 普代村の伝統文化である鶺鴒(うのと)り)神楽は宮古市の黒森神楽とともに、久慈市から釜石市まで「神楽宿」を務める民家に宿泊しながら巡業する、全国でも希少な岩手県指定の無形文化財となっている。鶺鴒神楽を矢巾町の郷土芸能大会に特別出演していただくとともに、普代村にも合唱グループがあるとのことから合同発表の機会をつくり、更なる住民交流が図れないか。</p> <p>② ふるさと納税の返礼品として、矢巾町の農産物と普代村の海産物を詰め合わせた商品を企画し、両町村の農海産物のPRと販売につなげることができないか。</p>

# 一般質問通告書

矢巾町議会議長 廣田光男 殿

受付 No. <u>5</u>	平成30年2月26日	午前 <del>午後</del> 9 時00分
議席番号 <u>17番</u>	米倉清志	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 地域消防力の強化に向けた消防団の活性化について (答弁者) 町長</p> <p>消防団員の退職報奨金の引き上げや出勤手当の増額、団員OBの再入団などについて、平成26年3月に提案し、現在、退職報奨金5万円の引き上げ、出勤手当の倍増など待遇改善されてきた。近年、各地で大雨等大規模災害が多発しているが、本町の消防団の現状と今後の対策について伺う。</p> <p>① 現在の消防団員の充足率が85%以下の部は何箇所か。 ② 充足率の低い部の実態をどのように把握し、どのような対策をするのか伺う。 ③ 今、全国的に団員確保対策が講じられているが、本町での確保に向けた考えを伺う。 ④ 町内には多くの企業等が所在しているが、その企業からの団員勧誘対策を伺う。 ⑤ 今後、更なる高齢化社会が到来するが、団員不足の対応策として女性消防団員による救急処置や介護対応等が求められるが、女性消防団員の確保対策について伺う。</p> <p>茨城県阿見町女性消防隊が平成16年に発足し、11名で活動している。防火・防災救命講座などの開催、出初め式等では軽可搬ポンプ操法を披露している。本町においても女性消防隊を編成しているが、今後の時代に対応すべく女性消防隊を再編成し、町職員の女性職員や農協職員、保育園、幼稚園、学生、各企業等の女性職員も含めた消防隊を再編成すべきと考えるが、町長の考えを伺う。</p>

<p>質問 2</p>	<p>(質問事項) 駅前上堰に「ホタルの里」建設について (答弁者) 町長</p> <p>矢幅駅前に花壇をつくり、小川の上堰にゲンジホタルが飛び交う観賞地を創出することについて伺う。</p> <p>① 本町では、観光地を新規に開拓創出し観光客を誘致するために、ひまわり畑や道路に花ロードを整備し、町をあげて花の町をつくる効果をあげているが、更なる開拓について考えを伺う。</p> <p>② 矢幅駅周辺においてホタルが飛び交うようになれば、全国的にもホタルが舞い飛ぶ町として知名度が上がり、観光客の増加が期待されると思われる。駅周辺の池や上堰でホタルを育成できるように整備してはどうか。</p> <p>③ 上堰沿いに棚を作り、アーチに藤棚や果物の樹木、さまざまな花を植え憩いの場として公園を造り、地域の方々が出店を出し、賑わいを創出してはどうか。</p>
<p>質問 3</p>	<p>(質問事項) スポーツ芸術の人材採用について (答弁者) 教育長</p> <p>スポーツや芸術で専門的な指導者が不足している学校を対象に、国や県は人材の配置を進めているが、本町の対応について伺う。</p> <p>① 指導者や部員不足でクラブ活動を停止する現状があり、文武両道の町として人材育成に全力をあげてはどうか。</p> <p>② 平昌パラリンピックの日本代表選手を輩出しているが、オリンピックなど国際的な大会で活躍する選手の育成に取り組むべきと思うが、考えを伺う。</p>

# 一般質問通告書

矢巾町議会議長 廣田光男 殿

受付 No. 6	平成30年2月26日	午前 <del>午後</del> 9 時20分
議席番号 13番	川村よし子	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 国民健康保険制度の広域化について (答弁者) 町長</p> <p>国民健康保険制度について、全国的に4月から広域化になり、財政運営の責任主体は都道府県に移行します。新制度は、被保険者の多くが低所得者であるにもかかわらず保険税が高い、という国保の構造問題は何ら解決しないばかりか、負担増と徴収強化が迫られる恐れがあります。政府は新制度による急激な値上げが政権への国民的批判を招かぬよう、激変緩和措置を行うこととし、当町は6年間の据え置きを明言しました。市町村は、新制度でも賦課・徴収の権限を有しています。激変緩和措置が行われても、高すぎる保険税は変わりなく、独自の減免制度の実施・拡充のために法定外の繰り入れが必要と考えることから、以下3点伺います。</p> <p>① 国保の「均等割」の子ども分について、減免に踏み出す自治体が出てきているが、基金を切り崩し、当町でも実施するべきではないか。</p> <p>② 4月から、子どもの医療費の窓口無償化に対して課せられていた国保交付金の減額調整（国保のペナルティ）のうち、未就学児までが廃止されます。都道府県交付金も含めた当町への影響について、どのように見込んでいるか。</p> <p>③ 交付金等の減額調整（国保のペナルティ）の全廃を国に求めるべきではないか。</p>

質問 2

(質問事項) 高齢者福祉と介護保険について  
(答弁者) 町 長

憲法25条には、「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」とあります。年々年金が引き下げられ、電気・ガス・上下水道料金等、生活維持の公共料金の値上げが相次いで行われています。一人暮らしや二人暮らしの高齢者は、切り詰めた生活が日常化しています。このような状況の中、自治体の役割として、住民の命と暮らしを守ることが求められていることから、以下5点伺います。

- ① 第7期介護保険計画に当たりアンケート調査を実施しているが、高齢者の生活実態についてどのような傾向にあると認識しているか。
- ② 要支援1・2に続き、要介護1・2の在宅介護サービスを保険給付から外すことが決定した。認知症を含め、高齢者の4人に1人が介護を必要とする地域状況であり、現制度において軽度認知症介護は家族任せという状況となっている。保険料天引きであるが、介護保険制度の利用は、財政的に許される高齢者だけが利用する状況が生まれてきている。介護の格差が表れ、認知症の「早期発見・早期対応」の社会が希薄化していると思われるが、その解消に向けての対応について伺う。
- ③ 後期高齢者保険料と介護保険料のダブル値上げになるが、基準額で年間どのくらいの値上げになるのか。
- ④ 第7期介護保険料が基準額で一カ月6,500円に決まり、年額9,600円の値上げになり大きな負担になる。このことは滞納者を増やすことになり、介護サービス利用に制限が生じないか。また、所得段階層数を増やすことはできないか。
- ⑤ より介護予防の普及が大切であるが、憲法第25条に沿って「給付は支払い能力ではなく必要に応じて」ということと、「応能負担原則」などについて、具体的にどのように考えているのか。

質問3

(質問事項) 農業政策について

(答弁者) 町長

政府は、40年間続けてきた米の生産目標の配分である減反を2018年度から廃止します。農政の根幹ともいえる米の需給と価格の安定に対する責任を放棄し、農家にどれだけ生産するかを判断を任せ、価格も市場任せになります。さらに、減反したことによる直接支払い交付金も廃止となることから、以下4点伺います。

- ① 基幹産業である農業を維持していくために、町として担い手育成と一農家の安定した所得の確保が必要であると思われる。認定農業者の所得水準は、一人当たりどの程度か。
- ② TPP・FTAは、世界貿易自由化路線と大型化する農業を支援し、日本型農業である家族農業を減少させることにつながると思われるが、町の考えを伺う。
- ③ 家族農業を支援することが、耕作放棄地の解消や景観保持・担い手育成につながるのではないか。
- ④ 学校給食の地産地消率を上げるためには、家族農業者への支援が必要ではないか。



# 一般質問通告書

矢巾町議会議長 廣田光男 殿

受付 No. <u>7</u>	平成30年2月26日	午前 <del>午後</del> 9時27分
議席番号 <u>2</u> 番	水本 淳一	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 「健やかな生活を守るまちづくり」について (答弁者) 町長</p> <p>健康づくりと難病患者への支援に関し、以下について伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 病気、特に癌に対する知識の啓蒙について。</li><li>② 人間ドッグ等の個人負担の軽減について。</li><li>③ 車椅子利用者が利用できるトイレのコミュニティ施設を含む各施設への設置状況について。</li><li>④ 町内リハビリ施設の現在の状況と今後の対策について。</li></ol>
質問2	<p>(質問事項) 家庭的保育事業の取り組みについて (答弁者) 町長</p> <p>待機児童解消対策について、私たちの会派が12月会議に一般質問したところ、平成30年度から取り組む予定であるという答弁をいただいたことから、以下について伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 現段階での保育所申し込みについて。</li><li>② 「家庭的保育事業」取り組みの進捗状況について。</li><li>③ 盛岡市との連携で実施される研修会日程について。</li><li>④ 盛岡市以外の市町村において、同様の研修会の受講はできないか。</li></ol>

<p>質問3</p>	<p>(質問事項) 「住民協働の町づくり」について (答弁者) 町長</p> <p>今年度、町長を交えた御用聞き隊による地区懇談会が開催されたが、以下について伺う。</p> <p>① 各地区からの要望、意見等に対する対応状況について。 ② 今後の開催予定について。 ③ 地区担当職員の現在の活動状況と今後について。</p>
<p>質問4</p>	<p>(質問事項) 広域連携の推進について (答弁者) 町長</p> <p>今後、町周辺部、特に国道4号やJRから離れた地域に居住する高齢者等の交通手段の改善が求められる。また、盛岡市方面からの交通網の整備も重要だが、町南側の地域は古館駅や日詰方面の利用者も多く、さらに紫波町方面から岩手医科大学附属病院方面の交通量の増加も予想される。このことから、交通対策について、古館駅の活用を含めた広域連携の具体的な考えについて伺う。</p>
<p>質問5</p>	<p>(質問事項) 「住みたくなるまち やはば」の青少年への取り組みについて (答弁者) 町長</p> <p>都会に出た子どもたちがUターンをしたくなるような町づくりを目指すため、以下について伺う。</p> <p>① 地域について子どもたちにどのように伝えているか。 ② 町あるいは企業が学校で出前講座を実施する考えについて。</p>

# 一般質問通告書

矢巾町議会議長 廣田光男 殿

受付 No. 8	平成30年2月26日	午前 <del>午後</del> 10時20分
議席番号 15番	藤原由巳	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 平成30年度の施政方針演述について (答弁者) 町長</p> <p>2月22日に開会した今3月会議における高橋町長の所信表明を受け、以下について質問します。</p> <p>1点目は、財政運営について積極的な投資や先駆的な取り組みを「まちづくり改革元年」と位置づけて推進するとありますが、その具体的手法について伺う。</p> <p>2点目として、「快適性と安全性を高めるまちづくり」に関する水需要増加への対応について現水源の将来像や、築川ダム関連も含めた具体策、上下水道事業における施設や管路等の老朽化対策への年次別具体策について伺う。</p> <p>3点目として、一丁目一番地政策とある「産業の活力を高めるまちづくり」について、以下伺う。</p> <p>① 国の米政策が大転換されるが、それに対応すべき本町の水田農業・米政策をどのように進めるか伺う。</p> <p>② 本町の水田農業の中で全国的評価を得てきた「もち米」の生産が大きな岐路に立たされているが、その対策を伺う。</p> <p>③ 法人化の推進とあるが、法人の現状をどう把握し将来の見通しをどう捉え、個人担い手と法人の両立推進対策は。</p> <p>④ 園芸作物の中で、近年面積拡大が著しく、岩手県一の面積を誇る「ズッキーニ」の更なる奨励対策と、最盛期の労力支援対策について伺う。</p>

- ⑤ ここ数年、異常ともいえる高価格で取引きされている和牛子牛生産事業があるが、本町においては地域的な事情もあり、また生産者の高齢化等から、限られた地区・農家での生産となっている。その中で、環境対策や更新すべき素牛が高価格から導入出来ない等、多くの課題が提起されているが、近年若年層での新たな取り組みもあり、本町農業生産額の向上や飼料作物生産での水田利活用にも寄与しており、今後の和牛振興対策について伺う。
- ⑥ 均衡の取れたまちづくりに向け、町東南部と西南部の農業振興対策こそが産業の活力を高める「一丁目一番地」と考えるが、「均衡の取れた矢巾町」の将来構想を伺う。
- ⑦ 商工業の振興において、新規立地店舗及び既存商店等の連携とあるが、駅西地区に進出予定の店舗の概要と、このエリアを核としての新たなまちづくり構想はいかがか。また、駅前の空き地（主に2カ所）の利活用策を伺う。
- 4点目として、平成30年度は「スポーツのまち」としてスポーツ振興策を人づくりの柱とあるが、その具体策はどうか。また、30年度における町民運動会開催の可否を伺う。

質問 2

(質問事項) 教育行政方針を受けて  
(答 弁 者) 教育長

平成30年度の教育行政方針から、以下伺います。

1点目は、学校教育の充実についてですが、①「豊かな心の育成」②「確かな学力の保障」③「健やかな体の育成」といった「生きる力」を育むとありますが、①では生徒指導の充実に努めて、②ではさらなる指導体制の改善に努めて、③でも努めるほか、努めます等々具体策がまるで見えない事から、この3点の具体策を伺う。

2点目として、学校規模及び通学区域の適正化において、学区の見直しは、町の行政区の動向注視とあるが、行政区の見直しにおいても、ある意味において行政区の意向に多くを委ねていると思われることから、教育委員会としての学区再編素案を示すべきと考えるが、教育長の見解を伺う。

3点目として、社会教育における生涯学習の充実については、今後更なる高齢化社会が見込まれるなか、自治公民館活動が自治会においては活動に大きな格差があるとも言われている中、自治会コミュニティ活動と一体化し、町職員における地区担当職員の活用により自治会と自治公民館活動の一体活性化を図ってはと考えるが、その所感を伺う。

4点目として、今回の教育行政方針には無かったが2月22日の本会議において、徳丹城史跡周辺の活性化に係る請願が採択され、その関連意見書も採択されました。この請願は主に6項目に亘っておりますが、その中から、①町歴史民俗資料館と曲がり屋の改修及び利活用、②町立徳田小学校の移転検討 の2項目について、教育長の見解を伺います。

①については、30年度に屋根の葺き替え予算が計上されていますが、その後の季節毎(春・夏・秋・冬)の利活用計画と屋内外の維持管理計画を示されたい。②については、震災後の耐震工事が行われ現在に至っているものの、10数年前から移転ありきと示されており、地区住民等にとっては徳丹城史跡の活用と併せ大きな事案でもあることから、今後何年後が移転の目途となるのかその見解を伺う。

質問3

(質問事項) 「新しいまちづくり調査研究特別委員会」からの政策提言を受けて、その後の経過について  
(答弁者) 町長

平成28年度において、当時の「新しいまちづくり調査研究特別委員会」と「総務常任委員会」にて調査研究と検討協議を重ね、29年4月にその集約報告を行い、町当局に政策提言をいたしました。

今回はその中から、①行政区の再編にかかわるその後の経過について、②不動地区の3ヘクタールの活用策、③民有地を活用した開発計画について、④町営住宅の老朽化と防災対策について の4点について、町当局におけるこの1年間の検討経過について伺います。

①については、行政区の平準化と前段にあった小中学校の学区再編にも大きく関連する事案について、②については、不動地区の中心地でまとまった面積があることもふまえ、昨年途中には新たな情報もありましたが、その後の経過について、③については、徳田橋架け替えに伴う周辺民有地（アップルセンター跡地ほか）の利活用計画について、④については、3団地ある戸建住宅の老朽化対策が急務と捉え、その中でも医大附属病院に隣接する、矢巾住宅は周辺景観とも合致せず、また入居者も一人暮らしや高齢化が見られ、災害時の対応もふまえ、即急に検討を要すると特別委員会でも合意・提言されていることから、特にも前向きな答弁を願うものであります。

# 一般質問通告書

矢巾町議会議長 廣田光男 殿

受付 No. 9	平成30年2月26日	午前 <del>午後</del> 11時30分
議席番号 8番	藤原梅昭	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 『快適性と安全性を高めるまちづくり』について (答弁者) 町長</p> <p>阪神大震災より23年、東日本大震災より7年、8・9豪雨災害より5年、近年にも熊本地震、岩泉台風10号災害、と続いている自然災害。また、今後30年以内に発生が予想される東海トラフ巨大地震をはじめ、北海道東部沖の超巨大地震等の発生確率が年々高まっている中で、当町の対応状況を以下伺う。</p> <p>① 東日本大震災での被災地への復興支援対応状況、及び原発事故放射能による農産物等への風評被害対応について。 ② 8・9豪雨災害、台風10号被害を教訓とした水害想定危険地域の対応状況について。 ③ 防災無線、監視カメラの活用稼働状況、及び防災ラジオの普及状況について。 ④ 消防団員と機能別消防団員の充足状況と増員方法、また自主防災組織の活動状況について。 ⑤ 県内の危険な踏切7カ所のうち、矢巾町にある踏切3カ所が指定されたが、今後の改善計画について。 ⑥ 空き家調査状況、及び耐震強度等危険な空き家の対策について。</p>

<p>質問 2</p>	<p>(質問事項) 『産業の活力を高めるまちづくり』について (答 弁 者) 町 長</p> <p>TPP11 (環太平洋連携協定) ・日欧EPA (経済連携協定) ・日米FTA (自由貿易協定) とますます厳しい農業情勢となるが、食料安全保障を重視し、農業が基幹産業であり、商工業も重要な産業であると言われているが、具体的な対応策について以下伺う。</p> <p>① 農業振興策として具体的な考えは。  ② 平成31年1月からスタートする、農業経営収入保険制度への対応は。  ③ 鳥獣被害対策について。  ④ 森林環境税の誘導による森林資源活用、及びマツクイムシ対策について。  ⑤ 東部・西部の観光開発・振興への具体的な取り組みは。  ⑥ 企業誘致への対応状況について。</p>
<p>質問 3</p>	<p>(質問事項) 学校教育の充実について (答 弁 者) 教育長</p> <p>① 教育委員長と教育長を一本化した効果について。  ② 地域のスポーツ指導者や大学生の活用についての具体策は。  ③ 廃部が起きているが、その原因とクラブ活動についての考えは。  ④ 世界的に問題になっている、ゲーム依存症への対応は。  ⑤ 矢巾型コミュニティスクールとは、具体的な考えを示せ。  ⑥ 学区の見直しについて、具体的な考えは。</p>



質問 4

(質問事項) 『安心と信頼が寄せられる行政経営』について  
(答 弁 者) 教育長

平昌冬季オリンピックは、政治的な色合いも濃かったが、総じて大成功であったと思われます。特に日本人選手の活躍と同時に、日本人スピリッツを全世界に伝えてくれた本当に素晴らしい大会だったと思います。

また、3月9日からは、パラリンピックが始まり、当町から高橋幸平選手が、スキー回転・大回転に出場しますが、大いに楽しんできて欲しいものです。

2019年はラグビーW杯、2020年は東京オリンピック・パラリンピック、2021年は関西ワールドマスターズゲームズと、世界大会が3年も続く奇跡の3年を「ゴールデン・スポーツイヤーズ」と呼んでいるそうです。

平成30年度は「スポーツのまち」として、スポーツ振興策を人材育成の柱とした、多様な価値観に対応した町づくりへの具体的な考えを伺う。

# 一般質問通告書

矢巾町議会議長 廣田光男 殿

受付 No. 10	平成30年2月26日	午前 <del>午後</del> 11時59分
議席番号 9番	川村農夫	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) イセファームの臭気対策について (答弁者) 町長</p> <p>岩手医科大学附属病院開院までの課題の一つとされてきましたイセファームの「養豚場臭気対策」について、町の取り組みとその展望について伺います。</p>
質問2	<p>(質問事項) 農業の具体的施策展開について (答弁者) 町長</p> <p>本町の基幹産業と唱えながらも、矢巾型農業とは何か伺います。</p> <p>具体的な規模別・種目別農業経営の地域ごとの主業型農業者については、国策だけが専攻しています。</p> <p>反面、小規模農地所有者の農地活用を探る方法を具体的に描き出すことが出来ないでいます。</p> <p>集落内の農地・畑地の活用をどう組み合わせていくかが、真の矢巾型農業には必要と考えますが、町長の考えを伺います。</p>

質問3

(質問事項) 町長の町民党とは

(答弁者) 町長

高橋昌造町長は、県議時代から「町民党」という旗印を掲げて町民の多くの支持を得て選挙戦を制し、多くのリーダーシップを発揮され町政の遂行を担ってきました。

しかし、今年の国政選挙（衆議院選挙）において、自由民主党の「高橋比奈子氏を支持する」と岩手日報の取材に答え、報道がなされました。

投票結果は、2,000票ほどの差で、町民の支持は他者にあったのですが、町長の「町民党」の意味するものは、今まで・・・と今後・・・で、町民はどう捉えたら良いのか伺います。